

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので送付します。

病虫害発生予察注意報第5号

茶園での発生が多くなっています。今後の発生に注意してください！

- 1 作物名 **チャ**
- 2 病虫害名 **カンザワハダニ**
- 3 発生地域 **府内全域**
- 4 発生量 **山城：平年比多い、丹波：平年比やや多い、丹後：平年並**
- 5 注意報発令の根拠
 - (1) 6月中旬に行った巡回調査の結果、府内各地域の確認ほ場率は山城で95.2%（平年比多い）、丹波で66.7%（平年比やや多い）、丹後で100.0%（平年比多い）であった（表1）。
 - (2) 6月中旬に行った巡回調査の結果、発生量は山城で寄生葉率18.0%（平年比多い）、100葉当たり寄生虫数は133.0頭（平年比多い）、丹波で寄生葉率10.7%（平年比やや多い）、100葉当たり寄生虫数は62.3頭（平年比やや多い）であった（表1）。
 - (3) 府内各地域の5月下旬～6月中旬の期間の平均気温は、京田辺で21.4℃（平年比+1.4℃）、福知山で20.5℃（平年比+1.1℃）、間人で20.0℃（平年比+1.1℃）であった。同じ期間の降水量は、京田辺で130mm（平年比63%）、福知山で119mm（平年比60%）、間人で129.5mm（平年比79%）であった（表2）。**茶園が乾燥すると、本種の発生は助長されることが知られている。**この期間の高温傾向及び小雨傾向は、本種の発生に好適な条件であったと考えられる。
 - (4) 6月20日大阪管区气象台発表の近畿地方1か月予報（6月22日から7月21日までの天候見通し）によると、平均気温は平年並または低く、降水量は太平洋側で平年並または多く日本海側で平年並、日照時間は太平洋側で平年並または少なく日本海側で平年並と予想されている。一方、近畿地方の梅雨入りは6月26日とされ、平年（6月7日頃）と比較して大幅に遅れている。**今後も本種の発生しやすい条件が継続する恐れがあり、注意が必要**である。
- 6 防除上の留意事項
 - (1) 発生状況をよく観察し、新葉上で寄生を確認した場合は速やかに防除を実施する。
 - (2) 薬剤感受性の低下を避けるため、作用機構分類コード（IRACコード）を参照し、異なる系統の薬剤をローテーション散布する（表3）。
 - (3) ほ場によって新芽の生育にばらつきがあるため、薬剤散布時には近隣茶園への飛散防止に努める。
 - (4) 多発した茶園では、いったん発生量が減少しても、ほ場の乾燥条件が続くと再び発生が増加する可能性があるため、今後の発生に注意する。
 - (5) ピレスロイド系（3A）薬剤の使用は発生を増加させることがある。
 - (6) 農薬の散布にあたっては散布適期を確認し、周辺作物に飛散しないよう十分注意する。また農薬の選択にあたっては普及センター、農協等と相談し、使用基準を遵守して適正に使用する。
なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬登録情報検索システム」を参照のこと（<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>）。

表1 カンザワハダニの調査結果（6月第3半旬、50葉見取り調査）

地域	平年比	項目 \ 年次	平年比	R1	平年	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	H23	H22	H21
山城	多	寄生葉率 (%)	多	18.0	10.1	7.5	15.7	10.1	12.5	9.7	10.9	8.5	4.1	10.8	11.5
		寄生虫数 (/100葉)	多	133.0	52.7	43.1	79.6	61.2	70.7	68.1	52.4	52.6	12.3	57.9	29.3
		発生ほ場率 (%)	多	95.2	60.6	59.1	50.0	66.7	75.0	72.7	63.2	68.2	42.1	47.6	61.9
丹波	やや多	寄生葉率 (%)	やや多	10.7	4.5	13.7	1.0	1.0	0.0	10.0	5.7	10.3	1.3	0.3	1.7
		寄生虫数 (/100葉)	やや多	62.3	29.9	130.0	1.0	1.3	0.0	41.0	31.6	77.0	4.3	8.6	4.4
		発生ほ場率 (%)	やや多	66.7	40.0	66.7	33.3	16.7	0.0	66.7	66.7	50.0	33.3	16.7	50.0
丹後	並	寄生葉率 (%)	並	2.5	6.7	5.5	0.5	7.0	12.5	26.0	8.5	3.0	0.0	0.0	4.0
		寄生虫数 (/100葉)	並	27.0	29.5	39.0	0.5	42.0	71.0	99.0	31.5	7.0	0.0	0.0	5.0
		発生ほ場率 (%)	多	100.0	50.0	75.0	25.0	50.0	75.0	75.0	50.0	100.0	0.0	0.0	50.0

表2 アメダスデータによる京都府内の5月中旬～6月中旬期間(*)の降水量及び平均気温

地点/項目	降水量 (mm)			平均気温 (°C)		
	2019年値	平年値	平年比較 (%)	2019年値	平年値	平年比較
京田辺(山城)	130.0	205.4	63	21.4	20.0	+ 1.4
福知山(丹波)	119.0	197.5	60	20.5	19.4	+ 1.1
間人(丹後)	129.5	164.8	79	20.0	18.9	+ 1.1

※:5月11日～6月20日。降水量は期間の合計値。平均気温は期間の平均値

表3 「チャ」でカンザワハダニに登録のある主な農薬（令和元年6月25日現在）

摘採前日数	農薬名	希釈倍数	10a当たり散布量	農薬使用基準 〔摘採〇日前まで /〇回以内〕	毒性	農薬の分類	備考
7日未満	アーリーセーフ乳剤 サンクリスタル乳剤	300～600	150～500L	前日/ー	普	ー	
	スパイカルEX		200mL放飼	発生初期/ー	ー	ー	
	粘着くん液剤	100	400L	前日/ー	普	ー	
7日前	アクテリック乳剤	1000	200～400L	7日/1回	普	1B	
	アグリメック乳剤	1000	200～400L	7日/1回 但し被覆栽培は被覆開始 後	劇	6	
	カネマイトフロアブル	1000	200～400L	7日/1回	普	20B	
	コテツフロアブル	2000	200～400L	7日/2回	劇	13	
	スターマイトフロアブル	2000	200～400L	7日/1回 但し被覆栽培は被覆開始 後	普	25A	
	ダニゲッターフロアブル	2000	200～400L	7日/1回(*) 但し被覆栽培では被覆開始 後7日前まで	普	23	
	ダニコングフロアブル	2000～4000	200～400L	7日/1回(*) 但し被覆栽培では被覆開始 前日までかつ摘採7日前まで	普	25B	
	ダニサラバフロアブル	1000～2000 被覆栽培では2000	200～400L	7日/2回(*)	普	25A	
	ダニトロンフロアブル	1000	400L	7日/2回(*) 但し被覆栽培では摘採 21日前/1回	普	21A	
ダブルフェースフロアブル	2000～3000	200～400L	7日/1回(*) 但し被覆栽培を除く	普	25B 21A		
ミルベノック乳剤	1000	200～400L	7日/1回 但し被覆栽培では摘採 14日前まで	普	6		
14日前	アーデント水和剤	1000	200～400L	14日/3回(*)	普	3A	
	クリアオール水和剤	2000	200～400L	14日/1回(*) 但し被覆栽培では被覆開始 14日前まで	普	3A 23	
	サンマイトフロアブル	1000	400L	14日/2回(*) 但し被覆栽培では被覆開始 14日前まで	劇	21A	
	スターマイトプラスフロアブル	1000	200～400L	14日/1回(*) 但し被覆栽培は被覆開始 後	劇	21A 25A	
	ダニトップフロアブル 茶ちゃっとフロアブル	2000	200～400L	14日/1回(*) 但し被覆栽培では被覆開始 14日前まで	普	10B 21A	
	ダニハチフロアブル	1000	200～400L	14日/1回(*) 但し被覆栽培は被覆開始 後	劇	21A 25A	
	ダニメツフロアブル	1000	200～400L	14日/1回(*) 但し被覆栽培では被覆開始 14日前まで	普	10B	
	テルスター水和剤	1000	200～400L	14日/2回	普	3A	
	テルスターフロアブル	3000	200～400L	14日/2回	劇	3A	
	パロックフロアブル	1000～3000	200～400L	14日/1回(*) 但し被覆栽培では被覆開始 14日前まで	普	10B	
	マイトクリーンフロアブル	2000	200～400L	14日/1回(*)	普	21A	
21日前	カーラフロアブル	2000～3000	ー	21日/1回	普	10A	
	ピラニカEW乳剤	1000～2000	200～400L	21日/1回	劇	21A	
	ピルク水和剤	1000	200～400L	21日/1回(*) 但し被覆栽培では被覆開始 21日前まで	劇	3A 10B	
マブリック水和剤20	1000～2000	ー	21日/2回	劇	3A		
30日以上	テデオン乳剤	500～1000	ー	30日/1回	普	12D	

(*)：同一成分を含む農薬があるため、使用回数に注意する。